

令和7年度総社市立新本小学校学校評価資料

様式【学校評価資料】

(A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

新本小学校

| 学校経営目標 | 具体的計画 | 令和7年度の達成基準 | 自己評価(中間) | | | 自己評価(最終) | | | 学校関係者評価 自己評価の適切さ |
|------------------------------|---|--|--------------------------|----|---|--------------------------|----|--|--|
| | | | 達成状況 | 評価 | 改善策 | 達成状況 | 評価 | 改善策 | |
| 【確かな学力】 | ○自分の力になる自主学習や漢字・算数の単元別合格テストで個々の力を伸ばし、協同学習での対話的で深い学びにつなげる。 | ○「自主学習にがんばって取り組んでいる(3年生以上)」と自己評価する児童の割合が90%以上いる。(児童アンケートⅢ-2) ○漢字と算数の単元別たしかめテストの合格率90%になるようにする。 1学期 1年 2年 3年 4年 5年 6年 漢字 100 56 100 92 89 100 % 計算 100 67 100 92 100 85 % 2学期 1年 2年 3年 4年 5年 6年 漢字 100 100 100 70 89 100 % 計算 88 100 100 100 100 100 % | 90% | A | ○自主学習については、児童の自学ノートのコピーを週1回を目安に変え、引き続き学習意欲につなげる。 ○単元別合格テストについては、その学期で学習した漢字や算数の単元の内容をすべて網羅できるように取組方法を考えるようにする。また、1学期中に合格できていない児童には2学期に補充学習を行う。 ○掲示物や司会の台本等を活用しながら協同学習に取り組み、友達同士での話し合いの時間を今後も確保していく。 | 94% | A | ○児童アンケートや日頃の学習への姿勢にも具体的計画に全校で取り組んできた成果が表れていると感じるため、中間期の取り組みを継続していく。 ○手本となる自学を全校が見られるドライブに保存し、家庭学習の際の参考にできるようにする。しかし、ICT上のトラブルは懸念されるため要検討。 | ・自己評価は適切である。 ・自学の内容については、漢字や計算の復習だけでなく、調べ学習なども進んで取り組んでほしい。 ・数値化することは難しいが、協同学習を薄める中で言葉を大切にしたい対話的で深い学びとなるよう、指導することを大切にしてほしい。 |
| 【豊かな心(心優しい子供)】 | ○児童連絡会や教育相談を通して児童理解に努めつつ、生徒指導で「ほめて育てる」ことを重点にし、児童の自己肯定感を高める。 ○学校行事など児童の思いや願いを大切にしたい企画にし、児童の自主性・価値観を育て、達成感を味わわせる。 | ○「学校が楽しい」と回答する児童・保護者が90%以上いる。(児童アンケートⅡ-1・保護者アンケートⅡ-1) ○「学校行事に、めあてをもって参加している」と回答する児童が90%以上いる。(児童アンケートⅡ-2) ○「友達のよいところを見つけることができている」と回答する児童が90%以上いる。(児童アンケートⅡ-3) | 児:95% 保:95% | A | ○引き続き、発達段階に応じた「よいこと探し」を行う。 ○児童の自主性を育てるために、学校行事や委員会など児童と活動の目的(責任・必要感)をもたせることで、児童に活動を少しずつ委ねる場面を意識的に増やす。 ○持ち帰ったGood Behaviorカードを保護者の方に確実に見ていただく方法を職員で検討し、実践する。 | 児:97% 保:96% | A | ○引き続き、発達段階に応じた「よいこと探し」を継続する。(なかよし月間やそうじがらんど週間など) ○児童の自主性を高める指導を継続して意識して行う。 ○good behaviorカードを確実に持ち帰ることができるよう、児童への声かけを意識的に行うことを継続する。 | ・自己評価は適切である。 ・手書きのグッドビヘイビアカードで伝え合うのがよい。「嬉しかった。」や「頑張った。」などという気持ちが残しやすいと思う。 |
| 【健やかでたくましい体】 | ○しゃきっとカードを活用して生活習慣チェックを行い、望ましい生活習慣をつくる。 ○早起きの目標時刻を、登校時刻の1時間前までとする。 ○就寝時刻を、低学年(21時) 中学年(21時半) 高学年(22時)とする。ただし、習い事等で遅くなるのが分かっているときは、家庭で相談して就寝時刻を決めるようにする。 | ○実態調査(しゃきっとカード)で早寝を70%以上の児童が達成する。 ○実態調査(しゃきっとカード)で早起きを80%以上の児童が達成する。 ○実態調査(しゃきっとカード)で朝ご飯を80%以上の児童が達成する。 ○「寝る時刻を決めて子どもに声掛けをしている。」と自己評価する保護者が80%以上いる。(保護者アンケートⅣ-2) | 80% 76% 96% 96% | A | ○引き続きしゃきっとカードを活用し、望ましい生活習慣作りができるようにする。 ○早寝が達成できた原因には、1学期の行事(運動会やプール)、暑さで疲れてすぐ寝てしまうのではないかとということが挙げられる。前年度も1学期は高かったため2学期からは下がっていくことが考えられる。 ○早起きについては、「登校時間の1時間前」という表記で、特区とそうでない児童との間に差が出ているのではないかと懸念はあるが、起きることの必要性を折に触れて指導する必要がある。また、おうちの人と考えてみようとして投げかけて考えさせることが必要である。 | 64% 67% 94% 91% | B | ○早寝早起きする児童の割合が向上しなかったのは、メディアの関わり方に問題があると推察される。今後も、しゃきっとカードを活用し実態把握に努める。 ○保護者と児童と一緒に適切な生活習慣について考えることができるようにするために、学校保健委員会でも、早寝早起き朝ご飯、メディアの利用時間等のデータを示し協力を依頼した。 ○生活習慣について話題にしている保健だよりをすぐる配信するだけでなく、1部紙媒体も用意して学級での保健指導にも活用することにより、児童自身の健康に対する意識を高めるようにする。 | ・自己評価は適切である。 ・生活習慣を整えるとともに、外遊びもしっかりと経験してほしい。 ・生活習慣に関わることは日々の事柄なので、児童や保護者の意識が途切れないように、工夫して今後も取組を続けてほしい。 |
| 【地域とともにある学校(総社を愛す子供)】 | ○計画的に地域の人材・学習素材を活用する。 ○学校の教育活動を、各種の便りや学校ホームページ等を充実させて、積極的に発信する。 | ○「地域の人材・学習を活用した学習指導を実践した」が100%になる。(職員アンケート開かれた学校Ⅳ-1) ○義民祭、赤米づくり、町たんけん、野菜作りなど地域との交流を含め、学校の様子が分かる活動についてホームページに70回アップする。 1学期末:全65記事更新 2学期末:全147記事更新 義民祭関連・赤米田植え・野菜作り等を含む | 100% | A | ○今後も地域の方へ、活動の意図を十分の伝え、地域の方との打ち合わせを大切にしていく。 ○今後も、地域の行事や地域に根ざした活動に対して、目的意識や責任、地域への愛着の意識が高まるような導入や学習過程を意識していく。 ○すぐるでアップしたことを連絡するなど、ホームページに関心をもってもらう。 | 100% | A | ○新本地区を盛り上げる取組においては、地域の方の授業に入っただけで、ご当地キャラクターの選定にアドバイスをいただいた。また、その一環として、シールや缶バッジ作成につながった。 ○今後も地域の方へ、活動の意図を十分の伝え、地域の方との打ち合わせを大切にしていきたい。 ○今後も、地域の行事や地域に根ざした活動に対して、目的意識や責任、地域への愛着の意識が高まるような導入や学習過程を意識していく。3年生については、地域の人材の活用ができていなかったため、来年度に向けて計画をすすめる。(例:総合的な学習の時間に、奉賛会の方のお話を聞く。) ○引き続き、すぐるでアップしたことを連絡するなど、ホームページに関心をもってもらう。また、担任や担当が忘れず記録写真を残すようにし、ホームページに活用できるようにする。 | ・自己評価の適切さである。 ・地域に根ざした活動をしっかりと取り組んでいる学校となっている。今後も地域学校協働活動の一つとして支えていきたい。 |
| 【総中ブロック「さ」さわやかあいさつ(礼儀正しい子供)】 | ○新本小代表委員会や高学年での話し合いをもとに、あいさつ運動に取り組む。 ○地域の方に会ったときには進んであいさつをしたり、お世話になった時にはお礼の手紙を書いたりする。 ○「まさきプラン」による総社中学校区共通の連携したあいさつ運動の実践を行う。 | ○児童・保護者・職員アンケートの「(子どもは)自分から進んであいさつをしている」が、90%以上になる。 | 児:91% 保:84% 職:92% | B | ○少しの変化でも積極的に褒めることで児童の意識が継続するようになり、学校だよりやホームページに挨拶の取組を掲載して保護者の挨拶に対する関心を高めたりするようにする。 | 児:97% 保:84% 職:85% | B | ○中学生や更生保護女性会、交通指導員の方々など外部の力をお借りして朝のあいさつ運動を実施したり、学校だより等で挨拶の取組を発信したりしたが、保護者の肯定的な回答の割合は変化がなかった。今後は、各自の頑張っている様子を職員が懇談や送り迎えの来校時などに保護者に直接伝えるようにしていく。また、課題の解決に至らない児童に対しても個別に対応していくようにする。 | ・自己評価の適切さである。 ・登校時の朝の挨拶の声が小さい児童もいるが、登校班長などは頑張っている。小学校で身に付いたことがその後も生かされるので根気強く指導してほしい。 ・感謝を表す「ありがとうございます。」などの挨拶も大切にほしい。 |